

今月号の特集は「脊髄損傷」です。対麻痺者の理学療法には、理学療法の草創期から先人たちが積極的に取り組み、松葉杖による転倒練習、平行棒内でのジャックナイフとプッシュアップを上手く利用した立位バランス、小振り歩行から大振り歩行、或いは自動車への移乗練習など長下肢装具を用いた段階的な手技はすでに定着しています。このように、脊髄損傷者の立位・歩行練習はこれまで臨床現場や理学療法教育においても大きなウェイトを占めてきましたが、近年、腰椎レベルの脊髄損傷者の移動能力を安易に車いすレベルに設定する傾向がみられます。この背景には脊髄損傷者の実生活の機能レベルを考慮し、且つ入院期間の短縮化と相まって、実用性が乏しく獲得するまでに時間を要する歩行練習を避け、車いすレベルの早期社会復帰を目指したプログラムが優先的に実施されるためと考えられます。

しかし、突然、対麻痺という大きな障害を余儀なくされた人の多くは「もう一度、この二本の足で立ちたい、歩きたい」という願望を秘めながら、車いす生活自立に向けた理学療法に努力を重ねていることは否めません。近年、彼らの心理的ニーズに応えるべく下肢装具の開発が行われ、歩行再獲得が試みられています。そこで本号では、脊髄損傷の新しい機構の下肢装具に焦点を当てました。

島中氏、他には不全頸髄損傷者の下肢装具を用いた理学療法を、佐藤氏、他には最新の機能的電気刺激（FES）と新しい下肢装具との組み合わせによる歩行再獲得の実際と課題について解説していただきました。江口氏、他には内側股継手付き長下肢装具を、岡野氏、他には新しい相互歩行装具である ARGO を、両氏とも下肢装具のメカニズムと歩行練習を行う際の具体的手順、適応レベルについて詳述していただきました。特に退院後の装具の使用状況が高いのに驚きましたが、これは機能的に優れた装具であることを裏付けているといえます。矢野氏、他には、氏が開発した炭酸ガスの給排気圧を利用した荷重制御式歩行補助装具の構造と歩行練習の結果を示していただきました。各執筆者らの対麻痺者の歩行再獲得への果敢な挑戦には熱いものを感じます。

新しく入門講座／映像情報の活用法、講座／「まち」をつくる側からの提言がそれぞれ6回シリーズで始まります。パソコンを操作し映像情報を上手く活用すれば臨床研究や日々の生活が充実してきます。また、生活環境をつくる側からの視点を知ることは患者指導を行う上で大いに参考となります。乞うご期待です。

一般演題 850 題が発表された第 36 回日本理学療法学会大会が終了したばかりですが、発表した内容をぜひ論文にして本誌に投稿されますようお願い申し上げます。
(鶴見隆正)

●編集顧問●

上 田 敏
五 味 重 春
津 山 直 一
福 屋 靖 子
松 村 秩
横 山 巖
(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

網 本 和
安 藤 徳 彦
内 山 靖
大 川 弥 生
高 橋 正 明
鶴 見 隆 正
奈 良 勲
吉 尾 雅 春

●編集同人●

伊 藤 俊 一
今 川 忠 男
上 田 陽 之
大 峯 三 郎
岡 西 哲 夫
菊 地 延 子
木 山 喬 博
工 藤 俊 輔
佐々木 伸 一
佐 藤 剛
佐 藤 秀 一
高 口 光 子
高 田 京 子
寺 山 久美子
富 樫 誠 二
富 田 昌 夫
長 尾 哲 男
仲 間 理 弘
長 澤 弘
永 富 史 子
中 村 春 基
橋 元 隆
濱 出 茂 治
福 田 恵美子
前 田 哲 男
牧 田 光 代
丸 田 和 夫
丸 山 仁 司
宮 本 省 三
諸 橋 勇
八 木 範 彦
山 本 和 儀

理学療法ジャーナル

(第 35 巻 第 7 号)

2001 年 7 月 15 日発行(毎月 1 回 15 日発行)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通(03)3817-5703

(担当:長谷川・山崎)

定価(本体 1,650 円+税)

(配送料 92 円)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

2001 年年ぎめ予約購読料 22,830 円
(索引/13 号を含む)(税込)
(送料弊社負担)

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

E-mail: ptj@igaku-shoin.co.jp

Web http://www.igaku-shoin.co.jp

印刷所 三 報 社 印 刷 ㈱ ☎(03)3637-0005

広告申込所 ㈱医薬広告社 ☎(03)3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2001, Printed in Japan

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は ㈱医学書院が保有しています。

・JCLS <㈱日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に ㈱日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。